

教
育

第113号

平成二十六年
度前期
研究会・研究大会特集
各支部・各学校より



『矜持』をもつ

三河教育研究会 副会長
小 川 悟



『夢を実現したい』これは、子どもたち、とりわけ中学生にとって、究極の願いであります。子どもたちは、いつの時代も夢を実現したいと思ひ、教師は、それを支えたいと考えてきました。ところが最近では、「夢をもとう」と言っても、夢をもてない生徒がいます。何か、自信を失っているような気がします。最近のOECDの調査によれば、教員も、子どもたちの主體的な学びを引き出すことについて、自信がもてないという結果が出ています。

私なりに原因を探ってみると、一つには、現状に満足してしまっている姿、もう一つは、自分を肯定しきれていない姿が目に見えます。ただ、個別に見れば、小さいながら目標を定め、一途に取り組んでいる子どももいます。また、指導の成果を上げている教員もいます。私は、子どもも教師も、自らの行いにもっと自信と誇りをもつべきではないかと思っています。本校では、「誇り」とか「プラ

イド」について、『矜持（きょうじ）』という言葉を使っています。どんな小さなことでも、そこに価値を見出し、一生懸命取り組んでいる姿は、実に美しいものです。月並みな言い方ですが、「ほめること」によって、それは実現されます。それも、単に「ほめる」のではなく、子どもや教員のさりげない行いに、いろいろな角度から価値づけをすることが大事ではないかと考えています。

本校の一例をあげてみます。本校には、『ドリームのかい』というボランティア組織があります。全校の半数以上の生徒が加入し、海岸清掃や福祉施設で老人のお世話などを行っています。あるときのことです。数人の中学生が、九十歳を超えるおばあさんたちを車椅子に乗せてお世話をしていました。私が近づいていくと、一人のおばあさんが、「この子は、ええ子だよ。」と話しかけてくれました。すると、隣からも、「この子もええ子だよ。」の声。「ええ子、ええ子。」コールです。それも、心の底から喜んでいる様子でした。それを見ていた中学生は、教員ではなく地域のおばあさんたちが、自分のしている行動に価値をつけてくれたことで、学校では見られないような笑顔を見せていました。

「生きる力」を、大それた力ととらえる必要はないと思います。心の中にしっかりとモノをもった人、『矜持』をもった人を一人でも多く育て、応援していきたいと思っています。

子どもたちの成長のために

三河女性役職者会 会長
渡 辺 充 江



毎朝、私の「おはよう。」の声に目も顔も合わせることなく、「誰？」と返していたA男。今では、「おはよう。」と返ってくるようになりました。時には笑顔さえ見せることも……。この夏休みの出校日には母親の実家に帰省し、楽しかったことを次から次に話すA男。その表情のやわらかなこと。私は今、こうした子どもたちの小さな成長に幸せを感じています。

A男は一年生の頃、集団の中でそれほど目立つこともなく、二年生に進級。それからが大変でした。新しい担任、新しい友との出会い、新しい環境に適応できず、登校しても生活科ルームや図書室で本を読んだり、寝そべったり、自分の思いを言葉にできず、何に対しても意欲がわかない様子でした。幸い蒲郡市には特別支援教育補助員が各校に一人配置されています。教室に入ることのできないA男の支援をお願いしました。そして、医療機関や保護者と相談して、特別支援学級に籍を移し、まずは『毎日、学校へ登校すること。不登校にさせない』を目標にしました。でも、A男のわがままとも思える行

動はエスカレートするばかり……。自分の思いが言葉にならず理解してもらえないもどかしさからあばれてしまうことも度々。そんな中で「やらない」ではなく、「できない」A男の思いをくみ取り、彼なりの「できる」を一つずつ増やしていくことにしました。そして、できたら思いっきりほめることを繰り返し、彼の力と自信を蓄えていきました。

ある日、母親が何気なく「自転車を買ってやったが、いつまでたっても乗れない」と話すのを聞いて、「自転車に乗れる」を目標に加えました。三年生の自転車教室で颯爽と乗れたら、大きな自信になるのではと考えたのです。早速、教室でペダルをこぐ練習です。始めはA男もがんばっていました。が、なかなか乗れるようにはなりませんでした。三年生になっても乗れないまま、運動会の練習が始まりました。集中できる時間は短くても毎日の練習に参加し、本番では彼なりに一生懸命演技しました。何よりA男自身が「できた」を存分に味わうことができました。

次の週、ふつと運動場を見ると、ヘルメットをかぶったA男が自転車に乗っているではありませんか。まだ上手に曲がることはできないので、どこまでも真っすぐにですが……。一つの「できる」が次の「できる」につながることを実感した瞬間でした。

私たちは子どもたちの成長のために、子どもたちの伸びようとする芽を見つけて、「できた」という自信を育んでやりたいものです。

子どもを中心に据えた三河教育の推進

—平成 26 年度 夏季研修会・研究大会を終えて—

総務委員会

総務委員会では、五月

二十一日の定期総会以降、役員会・常任委員会を開催し、常任委員会の活動計画や各部会・各種委員会の夏季研修会等の充実について、協議を重ねてまいりました。

本年度は、夏季に十四の研修会・研究大会が開かれました。子どもが生き生きと学ぶ姿をめざし、よりよい授業づくりのヒントを得ようと活発な議論が展開されました。今秋には八つの研修会・研究大会が計画されています。なお、本年度より研修会・研究大会において提案された指導案を、三

教研のホームページに随時掲載していきます。ご活用ください。授業力養成講座については、八月二十日に新城地域文化広場にて、二十二日に知立市中央公民館にて開催しました。約百四十名の受講者が集い、熱心に研修が進められました。夏季研修会等や授業力養成講座で学んだことを子どもを中心に据えた教育の推進に生かしていただくことを期待します。

最後になりましたが、研修会の運営に際し、関係市町村教育委員会、関係機関の方々にお世話いただきましたことに感謝申し上げます。

部会・各種委員会

研修会・研究大会の報告

国語

自らの言葉の力を磨き、
ともに高め合う授業

平成二十六年度 国語部会夏季研修会
期 日 八月四日(月)
場 所 豊川市文化会館
豊川市勤労福祉会館

参加者 三百六十四名
講演会「外から見た日本語
—留学生への日本語教育の
視点から—」

講師 武蔵野大学名誉教授
佐々木瑞枝 先生

多くの先生方のご参加を得て、午前中は、七つの分科会で研究協議を、午後は全体会と講演会を行いました。

本年度は、新しい研究テーマを掲げて初めての夏季研修会でした。提案者からは、テーマに沿った実践について提案がなされました。協議会では、子どもが言葉の力を磨くために、どのような支援が必要か、熱心な議論が展開されました。

講演会では、日本語教育を研究されている佐々木瑞枝先生を講師にお迎えし、留学生への日本語教育に長年携わってこられたご経験から、お話しいただきました。

た。「いる・ある」の使い分け、助数詞

について、地方によるイントネーションの違いなど、普段なにげなく使っている言葉にも、さまざまな要素が隠されていることを気づかせていただける内容でした。佐々木先生からの質問に、多数の参加者が答える場面もあり、たいへん楽しい雰囲気での講演会になりました。

本研修会を支えてくださった豊川地区の先生方、提案・助言・司会の先生方に心より感謝申し上げます。



ご講演をされる佐々木瑞枝先生

夏季研修会に参加して

豊川・三蔵子小 早川 訓代
小学校「書くこと」の分科会に参加しました。提案者からは、物語の登場人物が最初と最後で変化・変身している部分から想起し、子どもが楽しく物語を作り上げていく様子が伝わってきました。午後からの講演会も、佐々木先生が観客席まで降りてお話しくださったなど、刺激的で楽しい会でした。明日からの授業づくりに、すぐにでも役立てていきたいと思っています。また、運営にも携わらせていただき、多くの先生方にご協力をいただきましたことを感謝申し上げます。

書写

平成二十六年度 書写実技講習会
期 日 七月二十五日(金)

場 所 竜美丘会館(岡崎)
参加者 五十五名
講演講師 愛知教育大学教授
衣川 彰人 先生

実技講師 岐阜女子大学教授
中根 海童 先生

書写実技講習会に参加して

岡崎・六ツ美中部小 成田 佳奈
今回、三回目の参加となりました。前半は、衣川先生の「仮名の字体と用筆」についての講演がありました。和歌をしたためる際には、文字の変化をつけるために多くの変体仮名が用いられたというお話がとても興味深かったです。

後半では、中根先生の実技講習で楷書と行書の実技に取り組みました。「一字一筆」や「穂のS字」など、毛筆で気をつけることや上達のコツをわかりやすく教えていただきました。短い時間で、真剣に書と向き合うことができ、充実した研修となりました。



書写実技に取り組む成田先生

社会

社会に参画してこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかわりながら問題の解決を図る社会科の授業(二年次)

平成二十六年年度 社会部会夏季研修会
期 日 八月八日(金)

場 所 岡崎市民会館・甲山会館

参加者 三百八十四名

講演会「社会参画の資質や能力を育む

社会科の授業」

講師

文部科学省初等中等教育局
教育課程課 教科調査官

澤井 陽介 先生

分科会

小学校 五分科会
中学校 四分科会

隔年で開催される三河教育研究会社会部会夏季研修会が、八月八日に開催されました。当日は三河全域より多くの参加者が集い、盛会のうちに幕を閉じました。

講演会では、文部科学省教科調査官の

澤井陽介先生にお話をいただきました。

先生は、本会の研究主題にある社会参画の意識を育む授業をどのように行っ

ていくかについてお話をされました。

社会参画につながる授業づくりの視点

として、①社会問題を教材化し問題解決

学習をすること②協同的に学ぶ学習スタ

イルを確立すること③社会的事象の意味

の理解を図ることの三つを挙げられまし

た。これは、私たちがこれまで実践の中

で取り入れようとしてきたことを改めて

価値づけていただくものでした。

講演会の後

は九つの分科

会に分かれ、

各支部から

十九の実践が

提案されまし

た。澤井先生



分科会を参観される
澤井陽介先生

も参観され、中学校の実践について、話し合いの質の高さに驚かれていました。

一方で、小学校と中学校の内容の整理についてご助言をいただきました。本会では、今回の夏季研修会など本年度の研究

の成果と課題を踏まえ、三年次研究につなげていきたいと考えています。

最後に来賓の方々をはじめ、分科会の

内容を深めていただいた助言者の先生

方、並びに関係諸機関の先生方に深く感謝申し上げます。

謝申し上げます。

歴史学習における社会参画

田原・清田小 炭山 和也

「社会参画とかかわらせた歴史学習のあり方」について話し合われ、人物

の思いに迫ること、確かな社会認識を

身につけることなどのご意見をいただきました。

社会と自分とのつながりを

感じにくい点が歴史学習の難しさだと

感じますが、歴史には、みんなの幸せ

のために努力した先人がいるからこ

そ、今の生活があるという大きなつながりがあります。そのつながりを実感

し、「自分たちもよりよい社会を築こ

う」と思えるような子どもを育てるこ

とが大切だと考えさせられました。

理科

自然を意欲的に追究し、豊かな心と創造力を培う理科学習

平成二十六年年度 理科部会夏季研修会

期 日 八月六日(水)

場 所 豊川市勤労福祉会館

参加者 二百二十三名

講演会「自然から学び、科学的に考える

二十一世紀型理科学習」

講師 東京大学大学院教育学研究科

特任教授 日置 光久 先生

講演会では、子どもが、地域、親、そ

して、他の子どもや教師とのつながりを

強めることの重要性について説明してい

ただきました。さらに、日本にある自然

を生かした海洋教育の魅力について紹介

していただきました。「海に親しむ」「海

を知る」「海を利用する」「海を守る」こ

の四つのキーワードを基に単元を組むこ

とや、近く

に海がなく

ても海洋教

育が可能で

あることを、

具体例を挙

げて教えて

いただきました。

分科会で



ご講演される日置光久先生

分科会では、小学校下学年、小学校上学年、中

は、小学校下学年、小学校上学年、中学校、すべての分科会において、本テーマに沿った活発な協議が行われました。助言者の先生からは、講演の内容とかかわるご示唆をいただきました。

参加された先生からは、「二学期からの授業に生かすことができる」「これまでの自分の実践を振り返るよい機会になった」という声を多数いただくことができました。

その気にさせる工夫
新井・新井中 今泉 直己
子どもが次々と科学的な追究をしたくなる気持ちにさせるために、出会いから追究までの単元構想の大切さを改めて実感しました。

例えば、

言語活動を充実させたいの

であれば、

「個々の

思考を促すためにワークシートやモデルを用意する」など、様々な手だてや

その有用性を学ばせていただきました。

今後は、科目の特性だけでなく、

次の学習指導要領も意識しつつ、生き

る力をより身につけることができる研

究実践に取り組んでいきたいです。



提案する今泉先生

生活科

自らの生活を切り拓く子ども
—子どものつばやきに耳を傾け、
対話を大切にして、思考を深める授業—

平成二十六年生活科部会夏季研修会
期 日 八月八日（金）
場 所 豊川市文化会館
参加者 約二百八十名
講演会「確かな学力を育成する
探究・協同の授業づくり」

講師 文部科学省初等中等教育局
田村 学 先生

本年度の生活科部会の夏季研修会は、
豊川市にて約二百八十名の参加者を迎え
開催することができました。

三つの分科会では、思考を深め、気づ
きを生むための手だてを意識した質の高
いレポートが提案され、参加者からは夏
休み以降の実践で参考になるという声を
聞くことができました。助言者の大学教
授や准教授の方々からは、今後の実践を
深めていく上での貴重なご助言をいただ
くことができました。また、「思考」に
焦点を当てた研究を具体的な事例を挙
げ、思考を深めるための手立てを示すこ
とができました。

講演では、具体的な実践例をもとに、
自発的に行動する子どもになることが大
切であり、そのためには、教師が子ども
たちの思考のつながりを意識して授業を
すすめていく必要があることを教えてい



ご講演される田村学先生

ただいま
した。今
後、どの
ような姿
勢で生活
科を実践
していく
べきなの
か、とて
も参考に
なるお話
でした。
最後に、本研修会を開催するにあたり
お世話になりました、豊川支部の先生方
に深く感謝申し上げます。

提案によせて

豊橋・多米小 中澤 彰仁

豊橋市では、「対話を大切にして、
思考を深める」ことを研究の重点に実
践を進めてきました。自然の豊かな校
区に住む子どもたちに、恵まれた自然
とたくさんかかわらせたいと考え、川
を教材とした実践を提案しました。分
科会では、参加された先生方からたく
さんのご意見をいただきました。また、
愛知教育大学の中野先生からもご助言
をいただくことができ、とても参考に
なりました。
今後も、子どもたちの興味・関心を
大切にし、子どもたちと対話しながら
思考を深めていける教材開発に取り組
んでいきたいです。

保健体育

仲間とかかわりながら、
習得した知識・技能を
活用する楽しさを味わう体育学習
（二年次）

平成二十六年 保健体育部会夏季研修会
期 日 八月六日（水）
場 所 安城市文化センター
参加者 三百二十一名
講演会「体育授業のフレーム転換」

講師 愛知教育大学教授 森 勇示 先生
小学校部会研究協議会
助言者 愛知教育大学講師 鈴木 一成 先生
発表者 豊橋・東陽中 大場亜希子 先生
中学校部会研究協議会
助言者 愛知教育大学教授 上原三十三 先生
発表者 岡崎・甲山中 伊藤 真平 先生

全体会では、澤信一部会長、小川悟三
教研副会長のあいさつに続き、安城市教
育委員会教育長の杉山春記先生より祝
辞をいただきました。

講演会において森勇示先生には、映像
をもとに具体的な場面において、これま
での概念を取り払った体の動きの見方に
ついてお話しいただきました。

研究協議会において、小学校部会では、
ロックやサンバ、ヒップホップのリズム
を取り入れた
「ハッピーダ
ンシング（ダ
ンス・表現運
動）」の実践
が提案されま
した。中学校



ご講演される森勇示先生

部会では、技を一つに絞り追究する指導
の工夫を取り入れた「器械運動（跳び箱）」
の実践が提案されました。

参加者の先生方からは、質問や意見が
次々に出され、充実した協議会になりま
した。また助言者の先生からは、各実践
に即したご助言をいただくとともに、今
後の実践に役立つご助言もいただき、中
身の濃い研修会となりました。

最後に、この研修会で大変お世話になり
ました安城市保健体育部の先生方、各地
区委員の先生方に深く感謝申し上げます。

研修会に参加して

安城・桜井中 澤田 一平

森先生のご講演の中で、様々な実践
事例を紹介していただきました。一時
間に一人百六十回転以上する台上前転
の授業。足が遅い児童が速い児童との
競走を楽しんでいる授業。どの子ども
たちも生き生きと授業に取り組み、運
動すること、できるようになることを
楽しんでいるように感じました。自分
がもっていた体育授業の考え方や見方
を問い直すことの必要性を感じました。
中学校部会では、伊藤先生の実践や
参加した先生方のご意見、そして上原
先生のご助言から、器械運動のはね動
作のポイント、技能向上につながる様々
なドリル練習や技能分析、生徒のつま
づきに対する教師の支援など、多くの
ことを学ぶことができました。また、
どんなに教材研究をしても、子どもた
ちの様子から多くのことを学ぶことが
できることを改めて感じました。日々
の教材研究、授業の振り返りを欠かさ
ず、授業の質を高めていくことの大切
さを強く感じました。

英語

心豊かな

コミュニケーションをめざして

平成二十六年年度

英語（外国語活動）部会夏季研修会

期 日 八月五日（火）

場 所 豊川市御津文化会館・御津支所

参加者 二百五十五名

研究発表・研究協議

四分科会（小学校二、中学校二）

講演会「外国語教育における

小・中連携のあり方

～人間の育成を考える～

講師 京都外国語大学教授

杉本 義美 先生

本年度の英語（外国語活動）部会夏季

研修会が、豊川市御津文化会館（ハート

フルホール）、御津支所で開催されまし

た。各地区より、多数の参加者があり、

盛大に開催することができました。

開会式後、豊田市立美里中学校小柳津

和久先生、豊橋市立高師台中学校石原宏

実先生、安城市立里町小学校鈴木桃子先

生、岡崎市立本宿

小学校高木理人先

生、以上四人の先

生方の研究発表、

そして研究協議会

を行いました。

分科会終了後、



提案する小柳津先生

京都外国語

大学教授杉

本義美先生

にご講演い

ただしまし

た。小学校

での文字指

導のあり方

や中学校での自己表現の伸ばし方など、

小・中の英語（外国語活動）の指導法を

お話しくださり、参加者からとても有意

義な時間を過ごすことができたとの感想

をいただきました。

最後に、この研修会を開催するにあ

たって多大なご協力をいただきました豊

川市教育委員会、並びに豊川支部の英語

部の先生方に深く感謝申し上げます。

夏季研修会に参加して

豊川・小坂井中 鈴木賀一朗

分科会の発表では、私たちが二学期

に実践してみたいと思うような、具体

的な提案があり、日々の教材研究の参

考になりました。

杉本先生の講演では、先生の実践経

験をもとにした内容があったり、生徒

が頑張ってる学んでいる映像などがあっ

たりと、勉強になりました。講演会を

通して、小・中連携の必要性を改めて

感じる事ができました。また、英語

教育に関して、現在、悩んでいること

に対するヒントを得られた価値ある研

修会でした。



ご講演される杉本義美先生

特別活動

未来に希望をもち、

ともに生きる力を育てる特別活動

～望ましい集団活動を通して～

平成二十六年年度 特別活動部会夏季研修会

第一回 愛知県小中学校特別活動研究大会

期 日 八月一日（金）

場 所 西尾市文化会館

参加者 二百二十名

講演会 「子どもを育てる学級づくり」

講師 愛知教育大学

教育実践研究科教授

鈴木 健二 先生

今年度は、西尾市文化会館で夏季研修

会を行いました。また、第一回愛知県小

中学校特別活動研究大会も同時開催し、

名古屋や尾張の先生方にも、例年以上に

多く参加していただくことができました。

講演会では、講師の鈴木先生に「良い

環境づくり」を学校全体で取り組むこ

とが、子どもたちを育てることになる

と、先生の豊富な実践から具体的に例を

挙げ、わかりやすくお話ししていただい

ました。また、子どもたちの知的好奇心

を育てるためには、気づく芽を育てるこ

とが大切

だとお話

しくださ

り、日々

の生活の

中で子ど



ご講演される 鈴木健二先生

もを鍛える教師の姿勢を示唆していただ

きました。

小学校分科会では、主体的に動き出す

子どもたちの育成をめざした実践が、中

学校分科会では、仲間とともに高め合う

ことで、よりよい集団をつくる実践が提

案されました。協議会では、先生方から

の質疑応答が絶えることがありませんで

した。未来を担う子どもたちの育成のた

めに、意義ある分科会を行うことができ、

先生方の熱意を感じました。

夏季研修会に参加して

幸田・幸田中 山田 和幹

講演会では、講師の鈴木先生より、

「不機嫌は環境破壊」という言葉を教

わりました。児童・生徒の主体的活動

は、機嫌よく接する教師の姿から生ま

れるという話をお聞きし、自分自身の

姿を思い返して、はっとすると同時に、

今後の自分自身に対する目標を立てる

ことができました。

第二分科会（中学校部会）では、自

他の意見に折り合いをつける話し合い

活動を重視した実践が報告されまし

た。合意形成を図りながら立てた集団

目標（スローガン）を基に、自己決定

を掲げることで生徒の自主的・自発的

な活動を促す実践報告に対し、協議会

では、活発に意見交換がなされました。

私自身、ともに生きる力を育むことの

できる学級づくりに努めたいと、思い

を新たにしました。

特別支援教育

一人一人の教育的ニーズに応じた
教育のあり方をめざして

平成二十六年年度

特別支援教育部会夏季研修会

期 日 八月八日（金）

場 所 田原文化会館

田原中部市民館

参加者 三百九十名

講演会「子どもとともに」

～楽しく学びのある

学校生活をめざした

日々の実践から～

講師 前愛知県特別支援教育

研究協議会会長

間瀬 勝哉 先生

開会行事では、平井敏久部会長、小川
悟三河教育研究会副会長のあいさつに続
き、田原市教育委員会教育長の嶋津隆文
様からご祝辞をいただきました。

講演会では、講師の間瀬勝哉先生から、
ご自身の経験を交えながら、障害のある
子どもたちが、できる喜びを感じる授業
のあり方を具
体的に示して
いただいた
り、学校教育
に求められて
いることや教
師の心構えを



ご講演される
間瀬勝哉先生

ご教示いただいたりしました。

午後の分科会では、七つのテーマに分
かれ、それぞれ二名の先生方から貴重な
実践の発表がありました。また、分科会
ごとに発表内容をもとにした、グループ
討議が行われ、子どもたちの可能性を伸
ばすための方策を参加者全員で考え、活
発な意見交換がなされました。

本研修会では、講師の間瀬先生、分科
会の提案者・助言者の先生方をはじめ、
ご意見をいただきました先生方から多
くのことを学ばせていただきました。

最後になりますが、田原市教育委員会
をはじめ、田原市の先生方の多大なるご
協力により、たいへん有意義で充実した
研修会になりました。心より感謝申し上
げます。

子どもに寄り添うこと

知立・知立小 浅田 智子

分科会での提案を通して、子どもに
寄り添うことの大切さを改めて感じる
ことができました。子どもに寄り添う
ことで、よりの確に実態を把握するこ
とができます。どんなことに興味を
もっているのか、どんな支援を必要と
しているのかを知ることができ、それ
を指導や実践に生かしていくことが、
子どものよりよい成長につながってい
くものと考えられます。

これから、子どもたちの輝いた笑
顔、生き生きとした姿が見られるよう、
実践に取り組んでいきたいです。

総合的な学習

自ら探究し、共に学び合う
総合的な学習の授業（一・二次）

平成二十六年年度

総合的な学習部会夏季研修会

期 日 八月五日（火）

場 所 岡崎市民会館・甲山会館

参加者 二百三十名

講演会「力と夢を育てる

学校づくり・授業づくり

―総合的な学習を通して―

講師 奈良学園大学

人間教育学部 教授

善野八千子 先生



ご講演される
善野八千子先生

猛暑に
もかわ
らず、当
日は、二
百三十名
の参加者
が集まり、研修会を開催することができ
ました。

善野先生は、ご講演の中で、総合的な
学習の時間の効果が、教育現場の様々な
場面で現れていることについて、具体的
な例を挙げて、わかりやすく説明されま
した。

また、講演会の後半には、これからの
総合的な学習の方向性について、ご示唆
をいただきました。

その後、五つの分科会に分かれて、地
域や生き方などをテーマにした十地区か
らの実践が提案されました。参加者の熱
心な意見交換や、助言者の先生のご助言
により、充実した時間を過ごすことがで
きました。

夏季研修会に参加して

豊田・小渡小 玉腰 美香

分科会では、おやつづくりやミカン
栽培などの地域教材を活用した取り組
みの発表を聞かせていただきました。
学校独自の教材を開発し、活用するこ
とで、子どもの意欲が高まり、新しい
課題に向かって、お互いに学びを深め
合う子どもたちの生き生きとした姿が
印象的でした。

助言者の先生からは、教材研究を行
う際、教師が最終的な目標をもち、ど
のような活動を組んでいくかをはつき
りさせておくことの重要性をご指導い
ただきました。単元を通して、子ども
たちの意欲を持続させるために、イン
パクトがある単元名をつける必要性も
再認識しました。

さらに、総合的な学習を単元的にと
らえ、他教科との関連を図りながら学
習を進めることは、今まで学んできた
ことを今後の生活に生かす実践力を育
てることになるということも学ぶこと
ができました。多くの先生方の貴重な
実践を知る機会をいただき、感謝した
と思います。

学習情報

ネットワーク社会における

豊かな学びとメディア

平成二十六年年度 ICT活用研究会

期 日 八月六日(水)

場 所 ライフポートとよはし中ホール

参加者 百七十六名

提案者及び発表テーマ

①豊橋・牛川小 佐野 了 先生

「自ら学ぶ力を育てる

情報教育をめざして」

豊橋・下条小 村瀬 裕哉 先生

「豊橋の大葉」

②田原・泉中 内藤利江子 先生

「自作教材を使用した

授業展開について」

③豊田・井上小 大野 慎司 先生

「ICTによる多様な表現方法を用

いて、人と関わり合いながら課題

を追究できる子どもの育成」

④碧南・新川中 齋藤 聡 先生

「わたしたちのへきなん デジタル版」

⑤西尾・横須賀小 小塚 博貴 先生

「問題解決学習を粘り強く進める子に」

⑥高浜・高浜中 山下 聖皓 先生

「自問清掃指導におけるICTの活用」

昨年までの自作視聴覚教材研究会は、本年度より「ICT活用研究会」として、新たにスタートしました。急速に進化するネットワーク社会に対応して、子どもの豊かな学びを実現するために取り組ん

だ実践が報告されました。それぞれの地域の特性を生かした教材制作にとどまらず、子どもたちの学びを深めるICT活用のあり方について、参加者の活発な意見交換が行われました。また、助言の本間茂夫先生からは、教師や子どものICT活用、自作教材の制作活用について、的確なご助言をいただきました。

ICT活用研究会に参加して

岡崎・小豆坂小 加藤 明

タブレット端末の急速な普及などにより、学校現場でも子どもの学びを支えるICT活用がいつそう求められています。

本研究会では、授業でのICT活用について、具体的な実践が報告されました。教材の制作という点では、オリジナルキャラクターを用いて子どもの興味を惹きつける工夫をしたビデオ作りや、社会科副読本のデジタル教科書化などの取り組みが参考になりました。ICTの活用では、教師だけでなく、子どもがメディアを使って実験やインタビューを記録し、話し合いの場面で利用する実践がありました。子どもも自発的な学びの姿が見られました。

今後は、ICT活用で子どもの豊かな学びを実現する授業デザインを心がけていきたいと思いました。



教材を紹介する内藤先生

算数数学

算数・数学のよさを感じ、思考力・表現力を高める数学教育の実践

平成二十六年年度

愛知県数学教育研究会

小中学校部研究大会(西尾大会)

期 日 八月六日(水)

場 所 西尾市文化会館

参加者 西尾市中央ふれあいセンター

講演会 四百八十九名

「算数・数学の

醍醐味を体験する

「数学と音楽を「創る」喜び」

講師 (株)ネットラーニング

グローバル人材育成事業部

中島さち子 氏

平成二十六年年度愛知県数学教育研究会小中学校部研究大会を、八月六日に西尾市文化会館、西尾市中央ふれあいセンターで開催しました。

午前は、小中学校あわせて十二の提案を六分科会に分かれて協議しました。それぞれの分科会で、「かわり合い」「算数・数学的活動」「思考力・表現力」などをキーワードに各校の実践が提案され、活発な討議が行われました。また、最後に助言者である大学の先生方から、実践に対する改善点や今後の授業に役立つご助言をいただき、たいへん中身の濃い研修の機会となりました。

午後は、ネットラーニンググローバル人材育成事業部の中島さち子氏に、「算数・数学の醍醐味を体験する」という演題で講演をしていただきました。



ご講演をされる中島さち子氏

「数学の美しさ」「算数数学を学ぶことの面白さ」などについて、具体的な事例をもとに語っていただきました。また、算数数学に関連したワークショップやピアノ演奏もあり、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。

研究大会に参加して

西尾・鶴城中 池田 正広

現在、中学校三年生を担当していることもあり、分科会中Ⅲの発表に参加しました。関数の授業実践の提案の中で、生徒が実験を通してグラフのイメージを膨らませている様子がわかり、大変参考になりました。関数の単元は苦手意識をもつ生徒が多い中、生徒の興味・関心をそそる題材を準備し、追究させた実践を聞き、改めて教材の大切さを実感することができました。また、講演会では、数学の本質や美しさについて考えることができました。また、算数数学とピアノ演奏のコラボレーションも珍しく、興味深かったです。

養護教諭

未来に輝く子どもをはぐくむ 養護教諭の専門性と役割の追究

第二十五回愛知県養護教育研究大会
期 日 七月三十日（水）
場 所 日本特殊陶業市民会館
参加者 千二十八名（三河部五百七名）
講演会「脳科学から考える」

子どもの睡眠

講師 名古屋市立大学大学院
薬学研究科教授
糸 和彦 先生

開会行事に次ぐ研究発表では、はじめに尾教研丹葉支部学校保健部会が、「養護教諭の視点を生かした有機的な連携の在り方」よりよいアプローチの仕方を求めて「養護教諭をめざした実践を発表しました。」連携が見える実践のプロセスシート」や「アプローチの達人になるための九つのポイント」の活用は、連携のレベルアップにつながりました。次に田原市養護教諭会が、「からだや心の成長に喜びを感じて子—小中九年間を見通した保健指導の実践—」をテーマに、保健指導資料集の作成とその資料集を活用した保健指導の工夫について発表しました。児童生徒の発達段階に応じた九年間の資料集は実践的で参考になりました。

調査研究報告では、「養護教諭としての専門的力量的の向上をめざして—救急処置

活動における養護教諭の行うアセスメントに対する意識・取組から考える—」のテーマで、調査結果の報告と実践例の紹介から、フィジカルアセスメントを基本として、総合的に判断する力を身につけていくことの必要性を認識しました。

糸和彦先生のご講演では、「睡眠時間が短い子よりも長い子への配慮が必要」「九十分の倍数が起きやすいというのは都市伝説」など目から鱗のお話や、心と体のプラセボ効果など、子どもたちに伝えたい内容や接する上で心がけたいヒントをたくさんいただきました。



ご講演される
糸和彦先生

愛知県養護教育研究大会に参加して

みよし・中部小 狩野 美和

丹葉地区と田原の先生方の発表を聞き、連携や保健指導において、養護教諭ならではの視点が生かされており大変参考になりました。また、調査研究部の救急処置活動における養護教諭の行うアセスメントについての報告では、子どもの命に関わる重要な職務として、救急処置活動での適切なアセスメントの力を身につける必要性を痛感しました。講演は、糸和彦先生から脳科学に基づいた睡眠についてのお話でした。睡眠について多方向から話され、睡眠の重要性を再確認することができ、学校での指導に役立てたいと思いました。自分の養護教諭としての執務を見つめなおし、さらにスキルアップしたいと感じた研究大会でした。

学校図書館

学びを広げ 豊かな心を育む 学校図書館

第五十一回愛知県学校図書館研究大会
期 日 八月二十二日（金）
場 所 半田市福祉文化会館
半田市民交流センター

全体会

記念講演「大人が笑えば 子どもは笑う」

講師 NPO法人日本ホスピタル・

クラウン協会

理事長 大棟 耕介 氏

分科会

①—⑤

読書・学習・情報センターとしての学校図書館の管理運営
（小学校・中学校・高等学校）

⑥—⑧ ワークショップ

1 楽しい学校図書館を彩る掲示物づくり

2 読み聞かせの実演とお話

3 図書館の管理・運営について

全体会の講演会では、ホスピタル・クラウンとして世界中で活躍されている大棟耕介氏をお迎えしました。ユーモアあふれるトーク、見事なジャグリングなどで、会場にいる誰もが笑顔になった講演でした。笑顔の力、笑顔の伝播力、そして、相手を心地よくさせるコミュニケーションなど、一時間半の講演のなかで、多く

のメッセージを私たちに伝えてくださいました。

午後は 二会場で八つの分科会が行われました。分科会では、各テーマに基づいて、小・中・高の先生方から提案がありました。ワークショップでは、今後の活動に役立つ技能などを学びました。



提案される伊藤先生

教師の工夫で学校図書館は変わる

刈谷・刈谷南中 細田 智子

小学校部会・読書センターの部に参加しました。二年生に対する図書館活用学習の実践、全校挙げての南吉学習への取り組みなど、とても魅力的な提案をお聞きすることができました。また、その後の協議会では、来館児童の減少や固定化など、学校図書館運営の共通の悩みについて話し合うなかで、各校で取り組まれている様々な工夫を学ぶことができました。子どもにとって魅力ある学校図書館づくりや、教師全員で読書好きな子どもを育てる取り組みなど、小中学校の違いはありますが、私の学校にも取り入れたいと思うアイデアを多くいただけました。教師の工夫しだいで、学校図書館が変わり、子どもの読書に対する意識も大きく変わるのだということを学ばせていただきました。

校慢 学白

伝統文化と豊かな自然に育まれて

豊橋市立二川小学校

今春、本校の前身「二川学校」の扁額が二川宿本陣資料館にて一般公開されました。この額は、勝海舟が揮毫したもので、彼の署名と落款も彫られています。二川地区は、版籍奉還前後に徳川宗家を藩主とする静岡藩に属していたことがあり、このことから家臣の勝海舟と二川に縁ができ、揮毫されたものと考えられています。

本校区は、旧東海道二川宿の町並みを中心に伝統ある文化と豊かな自然に育まれてきた地域です。昨年度は、創立百四十周年を記念し、校区の岩屋緑地で全校オリエンテリングを行いました。地元の方の本校児童に寄せる思いは篤



大名行列に花を添えた鼓笛隊演奏

く、クラブ活動の外部講師、授業のゲストティーチャーに快く取り組んでいただいています。篠笛クラブでは、講師さん自作の笛を使わせていただいて演奏しています。賑やかな祭囃子が響き出すと、クラブ活動の時間は学校全体に活気があふれ出てくるようです。

本校が、地域の方々、二川中学校区の四小中学校とともに参加しているイベントに「本陣まつり」と「灯籠まつり」があります。

特に、本陣まつりは、すでに二十三回を数え、二川だけでなく、本市の秋の風物詩になっています。このまつりのメインは、二川宿の町並みを練り歩く『大名行列』です。藩主松平信明公、琴姫・雅姫にお供の者が従います。本校からも、六年生の代表児童が厚姫や先供、侍女役に、職員が宿役人に扮し参加します。また、今年度の六年生は、隣接する谷川小学校の児童とともに鼓笛隊を編成し行列に花を添えます。街道を彩る歴史絵巻に、道を埋め尽くす観客から熱い視線が送られます。

このように校区の歴史や自然とかわりながら学び続けられる学校、それが二川小学校です。

(文責・鈴木 功二)

研究校紹介

学び合い・磨き合いを軸にした、

思考力・判断力・表現力の育成

ICTの幅広い活用法と生徒が自ら求めてICTを活用する場の追究

岡崎市立葵中学校

本校は、岡崎市の中央部に位置する全校生徒七百三名の学校です

昨年度より、パナソニック教育財団から実践研究助成特別研究校として指定を受けて研究を進めてまいりました。また、本年度より、岡崎市教育委員会から「ICTを活用した二十一世紀型授業の創造」

研究委嘱校と、「タブレットパソコン活用」研究協力委嘱校、さらに文部科学省からも「ICTを活用した教育の推進に資する実証事業」実証校として指定を受けました。ICTを積極的に授業に取り入れ、生徒の思考力・判断力・表現力の育成をめざして、研究を進めています。



タブレットの画面を指差して説明する生徒

一 ICTを用いた学び合いのある授業
教師が教えるのではなく、生徒が主体的に学び合い・磨き合う授業を通して、基礎・基本となる知識技能を定着させるとともに、思考力・判断力・表現力といった生きる力の育成をめざしています。

授業の中にノートPC、タブレットPC、大型ディスプレイ、電子黒板、書画カメラなどのICTや各種の学習用ソフトウェアを取り入れ、生徒が主体的に考え判断するとともに、学びの成果を上手に表現する場を工夫してきました。

二 タブレットPC活用実践の研究

タブレットPCの可能性と有効性について特化して研究を進めています。タブレットPCにデジタル教科書や市販やフリーの学習用ソフト、教師自作の教材を組み込み、授業の活性化を図っています。また、情報収集ソフトを利用して、生徒の個々の考えを共有して授業を進めています。これまでの授業にタブレットPCのよさを取り入れることで、生徒は楽しく授業を進めています。

十月二十二日に、授業研究協議会を開きます。多くの先生にご参観いただき、ご指導いただければ幸いです。

(文責・畔柳 英徳)

私の研究

基礎・基本が定着できる外国語の学びをめざして

～小中高連携とコミュニケーション活動での活用を通して～

豊川市立代田中学校 足立健太郎

二 実践について

(一) 繰り返し(反復)学習

単元を通して習得させたい文法事項を、継続的かつ発展的に学習するのが「帯活動」です。例えば、動詞の活用や動詞句、発音記号などを扱います。単調になりやすいので、メトロノームやラップのリズムを奏でるiPhoneのアプリを活用したり、ペア活動を取り入れたりしながら生徒が飽きない工夫をしました。また、授業では音読を大切にします。一分間に教科書の各パートを何回読めるかを継続的に記録するカードを用意します。そうすることで目標を設定したり、上達

一 はじめに

いま、日本の英語教育は大きな転換の時を迎えています。

二〇二〇年の五輪開催に向け、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が出される中、小学校での

英語活動もスタートし、高校の英語の授業も変わってきています。そのような大きな流れを踏まえ、小中高の連携を視野に入れた基礎・基本の定着に焦点をあてて本研究を行うことにしました。

を実感したりしやすくなります。さらに、「ドリルノート」という家庭学習ノート

を使って、授業で学習したプリントや単語を復習する習慣を確立できるようにしました。レベル一の単語練習からレベル四の自由英作文を設定することで、各自の状況に応じて取り組むことができるようにしました。

(二) コミュニケーション活動

繰り返し学習で定着させた基礎・基本を活用したくなるコミュニケーション活動を設定することで、さらに学習意欲を高めていけるだろうと考えました。昨年度参観した英語活動の研究授業で、*Friends* のおすすめの本を紹介する活動がありました。その活動を中学三年生で内容を発展させて行いました。関係代名詞などを活用しながら、積極的に、そして楽しそうにコミュニケーションを図る姿がたくさん見られました。

三 おわりに

本研究を通して、生徒たちが基礎・基本を確実に定着させ、活用している姿を見ることができました。これからも、より効果的な外国語学習のあり方を研究しつつ、小中高の連携の可能性も探っていきたいです。



おすすめの国を紹介

教室の窓から

奉仕の雁が音

（夏ボラ2014）

刈谷市立雁が音中学校

加藤 祐介

走る雁が音
歌う雁が音
みどりの雁が音
奉仕の雁が音
あいさつの雁が音

本校には校訓とともに、生徒の生活目標である『五つの雁が音』があります。その中の『奉仕の雁が音』を具現化しているものの一つに地域ボランティアがあります。地域清掃活動、資源回収活動、防災訓練、運動会や敬老会、お祭りなどの季節行事に、本校の生徒はボランティアとして、地域の活動に貢献しています。本年度は約七十回の地域ボランティアが計画されています。毎週土曜、日曜には地域のどこかで、雁中生が活躍しています。生徒はボランティア手帳をもっており、参加すると、地域の役員の方が雁中マークのゴム印を押していただけます。十四個の印がたまると「ボランティアスピリット賞」として全校で表彰されます。

「あんたどこの子だん?」「ほおっかね。」とお年寄りに声をかけられ、「ぼくは、えっと。」と少し緊張しながら答える生徒。地域の方々から「ほんとうによ

くやってくれてありがとう。」と声をかけられ、照れくさそうにしている思春期の生徒。地域の方々に声をかけられ、お礼を言われ、生徒は地域に愛されながら成長していきます。

本校は刈谷市総合運動公園に隣接しており、部活動や授業などで施設を使わせていただいています。『走る雁が音』をスローガンに本当によく走り、体を鍛えています。その運動公園では、毎年刈谷市の『わんさか祭』が行われます。盛大な花火大会もあり、たいへんな賑わいです。しかし、残念なことに、祭の終わったあとの公園内はゴミだらけです。そこで本校の生徒会がゴミ拾いボランティアを計画します。今年も『夏ボラ2014』と称して、わんさか祭の翌日の早朝からゴミ拾いを行いました。今年も夏休みの早朝にもかかわらず全校生徒の半分以上の五百四十二名が参加しました。三十分もするとゴミだらけだった運動公園がすっかり元の姿に戻りました。



夏の暑さに負けず
ゴミ拾いをする雁中生

私のコレクション

子どもの頃からやめられないプラモデルづくり

設楽町立設楽中学校 伊藤 賢修

保育園の頃、祖母に初

めて買ってもらったプラモデルは、ゼンマイで動くスポーツカーでした。それ以来、今日に至るまで、細々と作り続けています。

小学生の頃は、モーターで動くものが好きで、スポーツカー、船、戦車と手当たり次第に作りました。モーターを換え、電池を増やし、友達とスピードやパワーをアップさせることを競いました。

中学生の頃は、ガンプラとミラタリーモデル。色を塗り、汚しをかけ、ジオラマを作る。この頃からリアルさにこだわるようにになりました。

模型づくりのおもしろさは、完成形を思い描き、それに向けて、手間暇をかけて工夫していくところです。下地を塗る、ヤスリをかける、彩色する、組み立てる、どの工程にも工夫の余地があります。

最近では、ただ作るのではなく、テーマを決めて製作し、子どもたちにも見てもらうことを楽しみにしています。

司馬遼太郎の「坂の上の雲」のドラマが放送されたときには、戦艦「三笠」を作りました。東郷平八郎や秋山真之がこの船に乗っていたかと思うとわくわくし

ました。

「風立ちぬ」が上映されたときは、九試単座戦闘機を作りました。堀越二郎が極限まで性能を追求した美しい飛行機です。有名な零戦より美しいと思います。

「永遠の0」が上映されたときは、もちろん零式艦上戦闘機を作りました。特攻機としての二一型、直援機としての五二型、それぞれにドラマを感じました。

これらの作品を学校に展示させていただきました。私の作った作品を子どもたちがじつと見ているのを見ると、なんだからうれしくなっています。

「どうやって作ったの？」
「ばくも作ってみたい。」

こんな会話を子どもたちとしながら、「次は何を作るのか」と思っている今日この頃です。



最近作ったプラモデル

今後の研究会のご案内

*愛知県小中学校音楽教育研究会豊田大会
「音楽のよさを学び かかわり合い 想いを伝えて」 評価を生かした指導を通して」
10月1日（水）豊田市立挙母小学校
豊田市コンサートホール

*第1回東海・北陸地区小学校
家庭科教育研究会愛知大会

平成26年度愛知県家庭科教育研究会西尾大会
「できる喜びを味わい、生活に生かすことのできる子の育成」ユニバーサルデザインを取り入れた家庭科の指導の工夫」
10月17日（金）西尾市立横須賀小学校

*第52回愛知県へき地教育研究大会

「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成」学校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の創意工夫」
10月28日（火）設楽町立津具小学校
設楽町立津具中学校

*第52回愛知県道徳教育研究大会豊橋大会

「豊かな心をもち 共にいよく生きようとする力を育てる道徳教育」
10月28日（火）豊橋市立羽根井小学校

*愛知県造形教育研究会総会

第52回愛知県造形教育研究会協議会
11月4日（火）穂の国とよはし芸術劇場
プラット

*愛知県中学校技術・家庭科研究大会知立大会

三河教育研究会技術・家庭部会研究集会知立大会
「よりよい生活に向けて、最適解を求め続ける生徒の育成」考えの広がりや深まりを大切にした問題解決的な学習を通して」
11月5日（水）知立市立知立南中学校

*愛知県生徒指導研究大会

「自らを高めた社会に役立つことをめざした生徒指導」
11月12日（水）江南市民文化会館

*愛知県統計教育研究発表会・講演会

「生きる力を育てる統計教育」主体的な学び方・生き方が身につく統計教育のあり方」
11月25日（火）イーブルなごや

編集後記

ここ数年続いた猛暑の夏と打って変わって、梅雨明けから台風・前線などの影響により、局地的な豪雨に見舞われた日本列島。プール開放や部活動の大会、研修や旅行等、外出する時には傘の手放せない日々でした。異常気象なのか、自然界の流れの一部なのか。気象庁が「高解像度降水ナウキャスト」の提供を始め、降水域の分布を一キロ四方から二五〇メートル四方で予測できるようにになりました。正確な情報をもとに自然災害から確実に身を守ることに、大切さを再認識した夏でもありました。

各部会・委員会の夏季研修会や研究大会、授業力養成講座に多くの皆様にご参加いただき、有意義な研修を展開することができました。その様子を本号にまとめ、お届けします。ご多用の中、原稿をお寄せいただいた皆様には深く感謝申し上げます。

◆表紙の写真◆

「われは高浜の子」

撮影 高浜市立高浜小学校

松本 麻美 先生